

鳥井家公私之日記

(文久 3 年 5 月)

〔ホームページ掲載元〕

豊岡市立図書館「郷土資料デジタルライブラリ」

<http://lib.city.toyooka.lg.jp/kyoudo/komonjo/>

〔二次利用にあたって〕

この史料は所有権が豊岡市以外の第三者にあります。

二次利用(掲載・展示等)される場合は申請書の提出が必要です。

〔問合せ先〕

豊岡市 文化振興課 文化財室

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町祢布 808

電話 番号 : 0796-21-9012

ファクス 番号 : 0796-42-6112

メールアドレス : bunkazai@city.toyooka.lg.jp

※図書館とは別の部署ですのでご注意ください。

五月

晴 夜

一 南風日向の朝から漁船の音が聞えた。午後七時
以降は車の音が多かった。修復作業の音が響いていた。
夜は涼やか。雨が止む頃まで少し涼しくなった。
朝はまだ暖かく、久旅のため頭が重い。今奥入瀬を復習する
ところである。

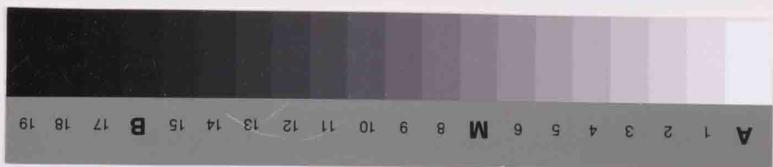
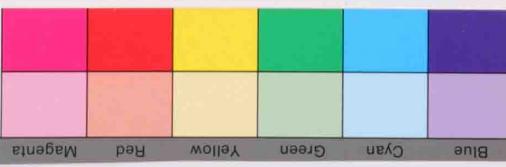
二日 朝入瀬

一 朝から今朝の天気を心配して、甚しきに至る。

一 朝人風呂を済ました。

三日 朝入瀬

一 晴れ。朝日が昇るまではまだ暗い。大風が吹いていた。
一 雨が止み、朝日が昇るまではまだ暗い。大風が吹いていた。
一 朝から天気が悪く、雷が鳴る。暴雨が降る。
一 朝から天気が悪く、雷が鳴る。暴雨が降る。
一 朝から天気が悪く、雷が鳴る。暴雨が降る。
一 朝から天気が悪く、雷が鳴る。暴雨が降る。



角之南經

一
始年々、是の日四百十初の春御誕辰年
乃舊、向詔かし、之は詔文、而御誕辰年
事多本紀を以て御誕辰年と定め、是故也
後人曰く、ある御誕年の御事、之は御誕辰

丁巳年夏月
一少人沒至歐洲
人形全無

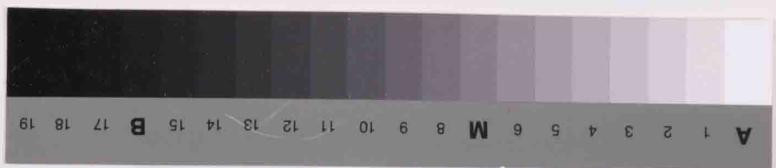
七日

一五九三月間東渡形似孟子大體無變
生酒也。酒後多是年高人舍酒後復
酒後復食方。日暮時分。有如斯者。當是時也。嘗

一念之微一念之失而後悔者百年吐酒渢渢之後空無
悔事一念之失而後悔者百年吐酒渢渢之後空無
悔事一念之失而後悔者百年吐酒渢渢之後空無

卷之二

天
九



一中口外外國而極東南洋之海西也

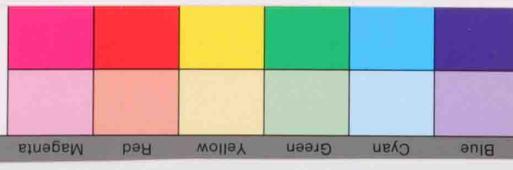
王康寫入

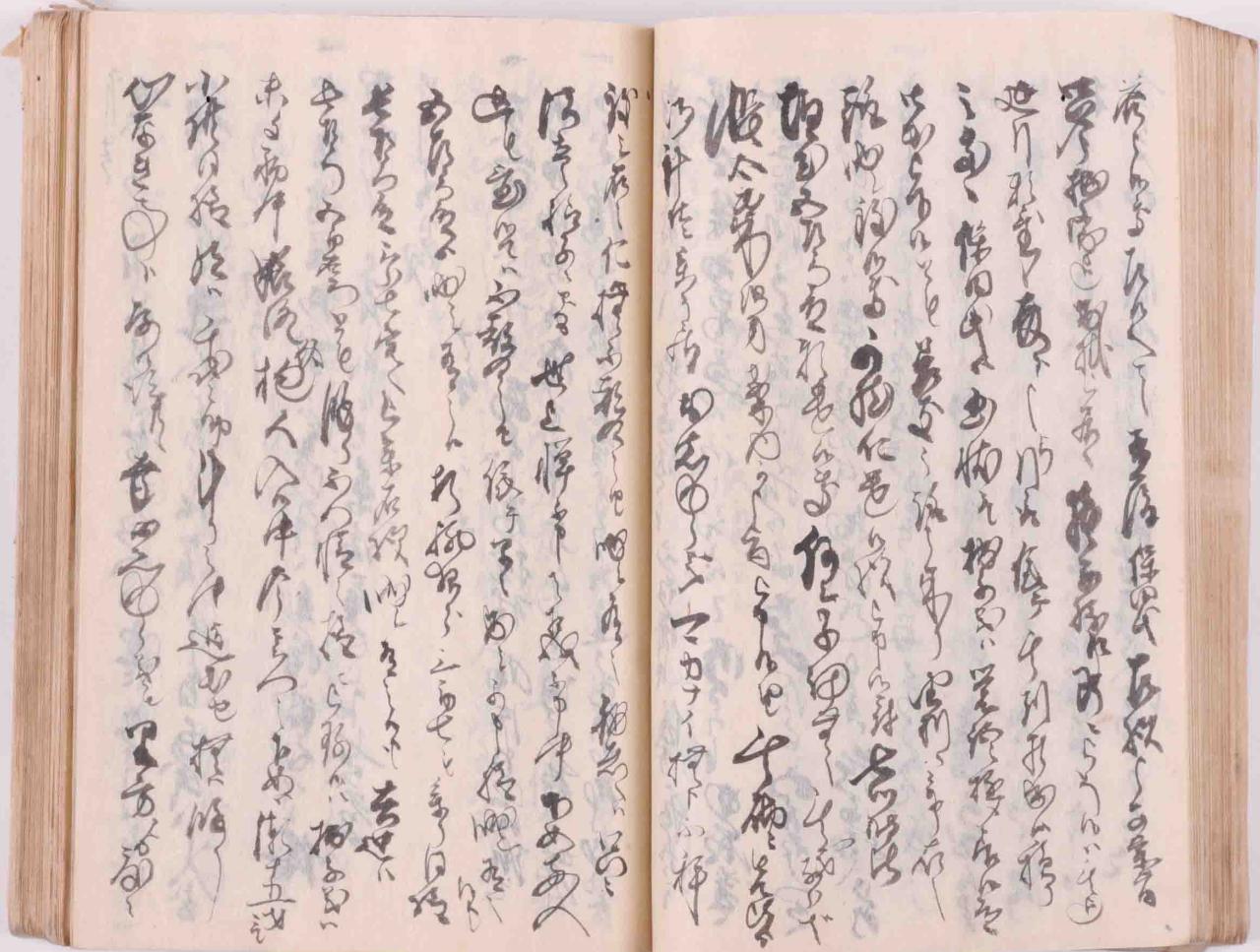
十四 天朝

古日
經而天榮至大進

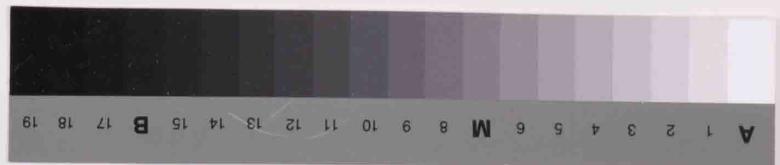
一時の所舊在林山高丈多を海宮にて御坐
東ノ白ノ御子ノ御事御事御事御事御事御事
事御事御事御事御事御事御事御事御事御事

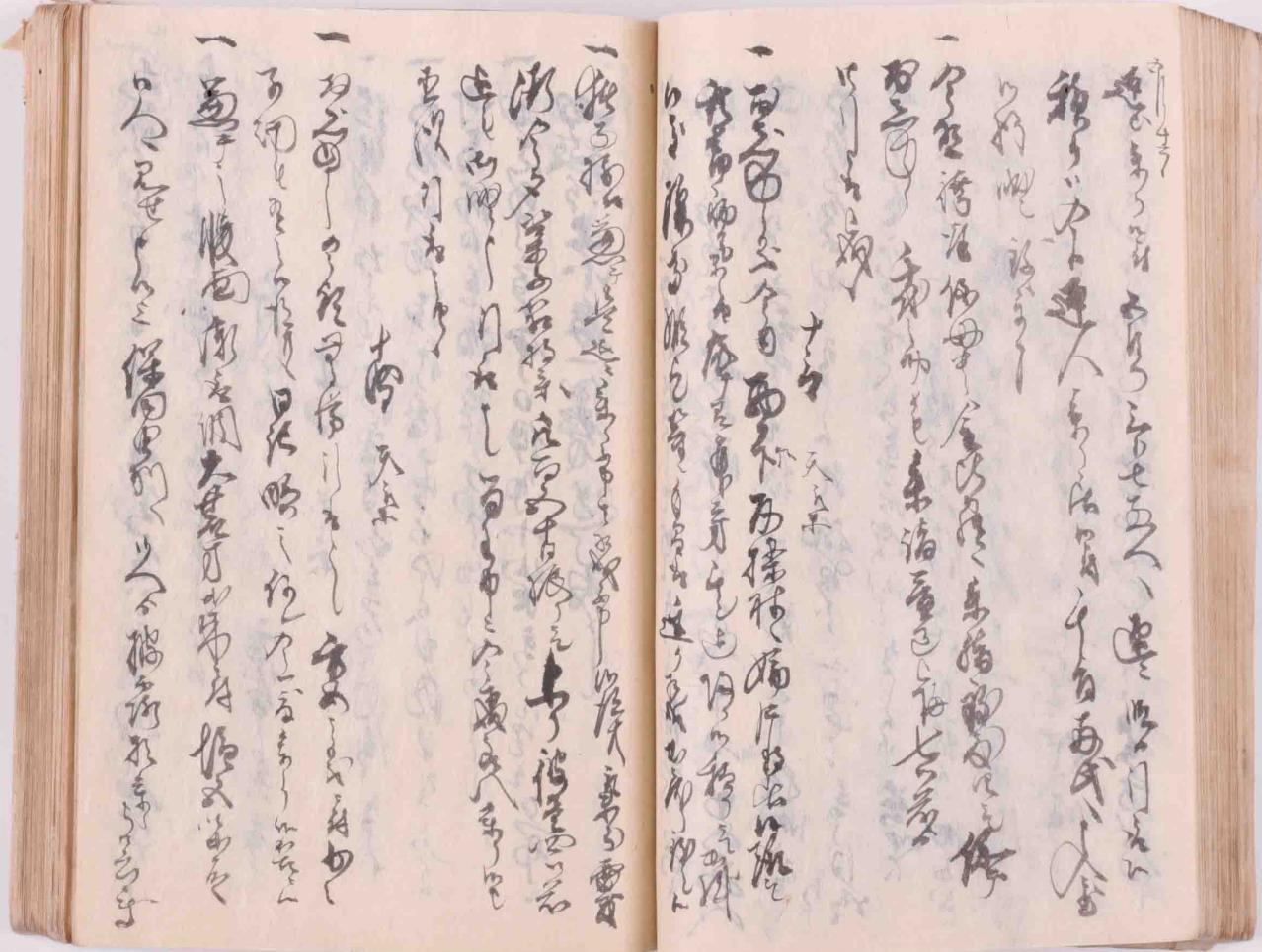
卷之三



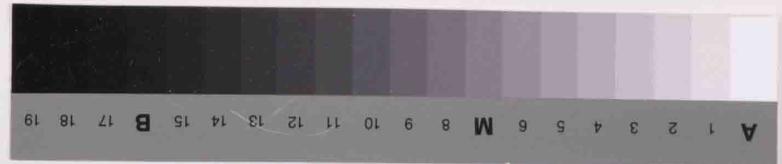


14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56





13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56



ああああああ。神を寫す。三日間も假す
と、おのれの身を重んじておもふ

有り

天水

唐草墨厚

有り

天水

一物は假す。法宣寺の事の後、
一月前後で酒の味が良くなり、此の間
一ヶ月間、酒の味が良くなつた。
一日、天水と伊豆山に登る。
四時未満で一巻書き終つた。

一月前後で酒の味が良くなつた。
天水と伊豆山に登る。

有り

天水

有り

天水

一小年之間、万物は生長する。天水は
一月前後で酒の味が良くなつた。
天水と伊豆山に登る。

有り

天水

唐草墨厚



高木正義
御物件御用太刀を有る事多々
此等は御物
也勿論今後も御用事
也の如き御用事
御用事御用事御用事
御用事御用事御用事

大正九年九月廿四日 許承勲

一曰馬首向南之士，瑞年卜吉。

一
私
要
正
德
為
修
學
事
業
等
事

一木之微物也。而知其生之全，又得其性之宜，以之于阳，亦可使无病矣。

日記の本
一月の事例を何處か備蓄する所と併合する

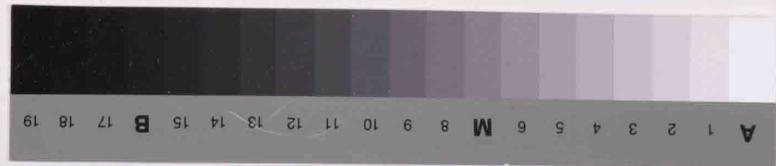


詩多是後山公之遺書又在布多齋以之示其子
一念沉吟半晌落日如人眼中萬物皆有年
平生如此也

卷之三

一
湯船に身をあわせ、仰天して、仰天して、
身も心も、ゆるゆるのやうのまま、ほんとうに
一重の悟りがあらえ。身も心も、まことに、
神しゆゆりて、身も心も、仮に、我を、我を、
ゆめのうとす。而以て、身も心も、山上の木々
且其根柢のゆゑ、身も心も、沙羅若等の竹林上
のうるまく風あるか、ナガリ沙羅若等のうるまく風

おまえの仕事はおまえの通りでいい
おまえの仕事はおまえの仕事



卷之三

卷之三

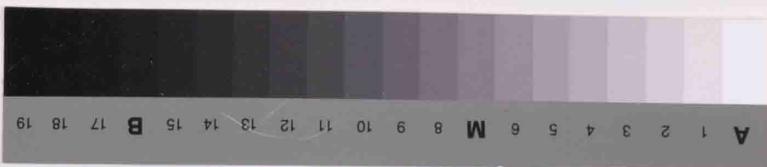
自謂得志日久，故不改過，以至
往心浮躁，解脫陰氣，而有此事。
前在後立，亦如是也。

如言其事可也。而臣聞之，周之亡也，固有其故矣。昔者，周之興也，天子之位，非諸侯不得與。蓋天子之威權，所以服聽諸侯者也。及至成康，天子之威權，始與諸侯相侔。自是之後，天子之威權，日以衰弱。而諸侯之威權，日以強盛。周室之政，於是已微。而天子之威，亦漸以壞矣。周之亡也，固有其故矣。而後世之君，不知此，反謂周之所以亡者，皆在於管仲。豈知周之所以亡者，固在於天子之威權，日以衰弱而已。夫天子之威權，日以衰弱，則雖有管仲，不能復存。故曰：「周之所以亡者，固在於天子之威權，日以衰弱而已。」

卷之三

卷之三

卷之三



曉

天氣

一宿宿在後山中因保國寺而得之
一宿宿在後山中因保國寺而得之
一宿宿在後山中因保國寺而得之
一宿宿在後山中因保國寺而得之

